

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (ヴォーカリストコース)											
専攻実技3											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	夏野カレン			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
ヴォーカリストの仕事は大きく二つに分けることができる。一つは請ける仕事(ビジネス)であり、クライアントに利益をもたらすことが最も重要である。もう一つは、自ら企画し発信する仕事(アート)であり、個性を存分に発揮しアートの観点から自由に発信していくことが出来る。本授業では、後者のアートに特化して個性溢れるヴォーカリストを育成する。											
到達目標											
社会に接続するために必要な要素を学び、オーディションなどでヴォーカルが発表できる状態を作ること为目标とする。											
授業方法											
ピアノをガイドとして使い、メロディーラインを完璧に体得する。歌と同時にステージングや機材についても学び、相互的な効果を狙う。											
成績評価方法											
成績評価方法実技試験60%。芸術評価は個々の教員によって観点が異なるため複数の教員の評価を統合して判定することにより客観性を確保する。 この他、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)。											
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応し、学生には積極的な受講態度を求める。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	自分の声域を知る、自分の歌いやすい音域を知る。										
第2回	声域を広げるためのトレーニング										
第3回	ステージ上でのアーティストのメンタリズムを理解し、実践できる。										

専攻実技3

第4回	マイクの仕組みと種類、マイクのりの良い声、発音方法とトレーニング
第5回	ピッチを正確にするためのトレーニングと知識
第6回	リズムトレーニング、メトロノーム1
第7回	リズムトレーニング、メトロノーム2
第8回	ステージング、歩き方
第9回	ステージング、歩き方
第10回	ステージング、アクション、目線
第11回	ステージング、アクション、目線
第12回	ステージング、MC
第13回	ステージング、MC
第14回	ステージで声を安定させるトレーニング
第15回	フェイク、アドリブの方法1、前期まとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (サウンドクリエイターコース)											
専攻実技3											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	杉本、藤崎			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
1年次に身につけた、クオリティの高い楽曲をスピーディーに制作できるスキルをさらに磨き上げることを目的とする。各自が決めたテーマへの精度の高い実現力を身につけるとともに、より深い知識、技術力、柔軟な対応力を身につけることを目標とする。本授業では講義以外に各自DAWで制作し、定期的な授業内発表により、締切に向けた作業工程の組み立てを自主的に考え「世の中に向け発表する」とはどういうことを体感できる。											
到達目標											
自身で制作した音色やテンプレート、プリセットの活用により素早いDAW操作ができる。楽曲構成とアレンジのヴァリエーションを学び、広い視野での個性的な作品制作を目標とする。高度な音楽理論の学習、多ジャンルの楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出すことができる。ボーカル、楽器の録音方法、高度なミックススキルの習得により、クオリティの高い作品の制作を目指す。											
授業方法											
学生各自がDAWを使用し、各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をおこなう。講師により楽曲のクオリティを上げるべく指導を受けることができる。適宜、音楽知識、制作技術、その他弱点補強の講義もおこなう。楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的な授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験を通し、困難に直面した場合でも、作業をしながら問題解決するスキルを身につけていく。											
成績評価方法											
試験10%(試験)、授業内発表10%(授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。)、提出物50%(授業内容の理解度を確認するために実施する。)、平常点30%(積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。)											
履修上の注意											
この授業ではキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	DAWの効率的な使用方法。自分で作った音色やテンプレートを使った、効率的かつ個性的な操作方法の習得。										
第2回	1曲目のモチーフと骨組み作り。メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフから骨組みを作る。										
第3回	骨組みからフルコーラスに発展させ、アレンジを詰めていく。										

専攻実技3

第4回	ボーカルや楽器の録音をする。
第5回	録音したものを整理し、エディット等をおこなう。
第6回	仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出する。
第7回	完成曲を学生全員で聞き、講師が個別にアドバイスする。弱点補強の講義。
第8回	メロディとハーモニーの関係、ドラムとベースの関係など、楽曲の詳しい仕組みを講義。
第9回	アレンジのバリエーションと、それぞれの詳しい仕組みを講義。
第10回	サイドチェーン、オートメーションの使用等、ミックスの高度な技術の講義。
第11回	2曲目のモチーフと骨組み作り。メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフから骨組みを作る。
第12回	骨組みからフルコーラスに発展させ、アレンジを詰める。
第13回	ボーカルや楽器の録音をする。
第14回	録音したものを整理し、エディット等をおこなう。
第15回	仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出する。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 3 (Gt/Ba)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	鈴木穰			実務 経験	有	職種	ギタリスト				
授業概要											
ギターがメインではない楽曲（歌モノでピアノなどがメイン）にギターはどのようなアプローチをするかを研究する。リズムアクセント、音域、循環コードにおける、共通音、アルペジオの研究											
到達目標											
歌をメインに他の楽器の上に乗っかりながら邪魔をせず、印象的なギターを弾ける引出しを多く持つことを目標とする。											
授業方法											
鍵盤メインの音源を聞かせ、譜面を配り、アプローチの仕方を考えさせ、過去のバンドのアレンジと比較しながら、Aメロ、Bメロ、サビでのギターのあり方を研究する。											
成績評価方法											
平常点60%（出席率など）、実技試験20%、筆記試験20%											
履修上の注意											
板書したもの、プリント等はまとめて常に持ってくる、次回にアレンジを考える曲はアプローチの仕方をまとめて発表できるようにしておく。											
教科書教材											
配布プリント、譜面等											
回数	授業計画										
第1回	① 1弦2、3、4弦ルート、トライアドの転回型でコード進行がおえるための練習、簡単な譜面に対して即座に対応、アクセントを1拍づつずらせてストロークできるか。										
第2回	①の応用編ルート音を5、6弦に置かない。										
第3回	② 9th、13th、sus4、を多用した印象的なシーケンス的アルペジオが作れるか。U2、スーパーフライ等参考。										

専攻実技3 (Gt/Ba)

第4回	②の応用編空間系エフェクター使用
第5回	③ディズニー曲のようなバラードでの他の楽器のアクセントをかわしながらアルペジオを弾く、代理コードの復習。
第6回	③の応用編
第7回	筆記試験
第8回	③の発展型として歌メロに呼応した裏メロが作れるか、ボーカルの隙間にオブリを入れられるか。
第9回	8回目の応用編スケール、アボイドノートの確認
第10回	④16ビートのファンキーな楽曲に単音リフを作れるか。参考例 (エアロスミス ウォークディスイエイ)
第11回	④の応用編ベースラインを提示それに単音リフ、コードカッティングをのせる
第12回	⑤AOR等によく使われるバラードでの単音リフとオブリのコツをつかむ。(ボズス キャックス等)
第13回	⑤の応用編音数を減らす裏拍を意識
第14回	実技試験
第15回	上記を想定した、JPOPでの応用編、楽曲の一部を採りて即対応できるか紅蓮華 (risa)等

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技3 (Dr)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	田原歩			実務 経験	有	職種	ミュージシャン、インストラクター				
授業概要											
プロミュージシャンとしての最低限の演奏スキルを指導しながら、楽曲に対するリズムアレンジ能力やレコーディング時における注意点、セオリーを指導し、個性を活かした楽曲作りに取り組む。またヴォーカリストコース、サウンドクリエイターコースの「オリジナル作品制作」の授業と連携し、ギター、ベース、キーボードなどの他楽器の学生と協力しながらオリジナルの楽曲を完成させる。											
到達目標											
複数のラテンパーカッションの基本的な奏法、正しいフォームについて学び、習得することで演奏の幅を広げる。ラテン系パターンを習得することにより四肢の独立を図り、また変拍子やポリリズムで拍の捉え方について学びながら、「自分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を意識する。結果としてあらゆる形でのデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身に付けることを目標とする。											
授業方法											
各1人ずつドラムセットに着いて指導を受ける。あらかじめ組み立てた基本的なカリキュラムに沿って授業を実施しつつ、学生一人一人と向き合いそれぞれが抱える悩みや弱点を常に確認し、それらの改善の為に最適な方法を提示する。最終的な目標・到達点・修得したい技術なども一人一人の要望を聞き出し、その実現のために必要な技術、知識を指導する。またテクニカルで修得した技術の実用的な応用方法も合わせて指導する。											
成績評価方法											
試験20%(授業内容の理解度を確認する)、授業内発表30%(技能、及び表現力を評価する)、提出物20%(知識及び思考力・判断力を評価する) 平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
無し											
回数	授業計画										
第1回	ボサノヴァの基本パターンの習得/ボサノヴァ演奏時における基本パターンとアプローチを習得する。										
第2回	ラテンパーカッションの理解/ジャンベ、コンガ、ボンゴ、シェイカー、カウベル等の基本奏法や役割について理解する。										
第3回	サンバの基本パターンの習得(1)/スネアとフロアタムのみで16分のアクセントを用いたパターンを習得する。										

専攻実技3 (Dr)

第4回	サンバの基本パターンの習得(2)/ライド、スネアでそれぞれが独立したリズムを刻むパターン①を習得する。
第5回	サンバの基本パターンの習得(3)/ライド、スネアでそれぞれが独立したリズムを刻むパターン②を習得する。
第6回	ソンゴの基本パターンの習得(1)/サンバとの違い、特徴を理解し、基本パターンを習得する。
第7回	ソンゴの基本パターンの習得(2)/ソンゴの基本的なアプローチを習得する。
第8回	変拍子についての理解(1)/3/4拍子上でのバックビートの解釈と、8分音符の4つ割パターンの習得。
第9回	変拍子についての理解(2)/5/4拍子上でのパターンアイディアの習得。
第10回	変拍子についての理解(3)/7/8拍子上でのパターンアイディアの習得。
第11回	ポリリズムについての理解(1)/1拍半フレーズについての理解と、アプローチパターンの習得。
第12回	ポリリズムについての理解(2)/16分音符の3つ割りフレーズについての理解と、アプローチパターンの習得。
第13回	ポリリズムについての理解(3)/3連符の4つ割りフレーズについての理解と、アプローチパターンの習得。
第14回	ポリリズムについての理解(4)/16分音符の5つ割りフレーズについての理解と、アプローチパターンの習得。
第15回	全体のまとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技3 (Key)											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	堀越			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
<p>学生個々の音楽の方向性を考慮しながらも、ジャズ的な要素も積極的に導入しつつ演奏技術を習得していくが、同時に音楽史に残る名曲、名演奏のエッセンス、時代によって変化するポップ・ミュージックの本質に接する中で現代的センスを吸収させ、よりクオリティの高いオリジナル作品を完成することも合わせて目的とする。</p>											
到達目標											
<p>次世代型キーボーディストのモデルとして、CoryHenry、RobertGlasper、JacobCollierを設定し、彼らの持つ演奏テクニックの完全な再現ではなく、彼らの持つJazz的要素、R&B的要素を理解することを目標とし、自らの音楽性に生かしていけるキーボーディストを目指す。</p>											
授業方法											
<p>演奏の現場で要求されるのは、まずマスターリズム譜などの簡単な譜面を見ながら、そこに記してあるコードネームやリズムの「キメ」に沿って演奏し、そして場合によっては指定箇所でもソロをとることである。2年次においては1年次において身につけた基本的なコードワークとグルーブやBluesフレーズに加え、Jazz理論に基づいた応用的なコードワークとBeBopフレーズ、モーダルなフレーズまでを習得していく。</p>											
成績評価方法											
試験30%、小テスト10%、実技50%、平常点10%											
履修上の注意											
<p>この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	リズム (グルーブ)、長三和音基本形の平行移動、四和音の転回形/両手フォーム、モードなどが出来る。										
第2回	テンションコードを弾く時にも重要になる「Root+3rd(orsus4)+7th」 ボイシングを理解することが出来る。										
第3回	「Root+3rd(orsus4)+7th」 ボイシングを各種コード進行、具体的な楽曲上で弾くことが出来る。										

専攻実技3 (Key)

第4回	各種V7 (ドミナント7th) コードとそれぞれに対応するスケールを理解し、弾くことができる。
第5回	「IIIm7-V7-I△7」 (Aパターン/Bパターン) を理解し、平行移動させて弾くことができる。
第6回	「IIIm7-V7-I△7」 V7部分を「♭13th+♭9th (or #9th) 」 「13th+♭9th」でも弾くことができる。
第7回	「IIIm7-V7-I△7」 IIIm7部分をIIIm7♭5に、I△7部分をIm7(9)あるいはIm6(9)に置き換えることができる。
第8回	裏コード (裏ドミナント) を理解し、弾くことができる。
第9回	ジャズコードの左手ボイスングの基本形について学び、弾くことができる。
第10回	12小節ブルース (基本/Rock的/Jazz的) のコード進行、コードボイスングについて理解することができる。
第11回	実際のブルース曲 (各種キー) に基づき、両手によるコードバックイング (Pf単独) に習熟することができる。
第12回	実際のブルース曲 (各種キー) に基づき、左手でコードを弾き、右手でソロをとれるようにすることができる。
第13回	ブルース曲演奏の練習を進めていくことができる。
第14回	ブルース曲の演奏に習熟していくことができる。
第15回	前期のまとめ